

昨年4月16日の本震当日の午後6時ごろ、熊本市中央区にある当院の駐車場は避難してきた車中泊の車で満車状態でした。とはいえ17日には診療を再開する予定だったため、避難の方々に「明朝には引き払ってよー」と冷たい言葉を浴びせてしまいました。

夜は家内に頼み病院のスタッフにメール。「医院は公共機関の一種だからなるべく早く開けたい。明日院内を掃除しその後診療するので、頑張ってきて！」。全然寝ていないスタッフからすると全く迷惑な話だよなー、と思いつながら、

ところで昨日まで人々と車であふれていた当院駐車場

## 市井の人々に感動

は、翌朝どうなっていたでしょうか？ なんとしつかりと掃除され、残された車も全くありません。いつもより奇麗なくらいです。あんなに困難な状況下で、早朝に片付けて帰られるというのは、相当な人たちです。心底「人々ってすごいな」と思いました。

その後も折に触れ、1日だけなのに近隣の方から「場所を貸してくれてありがとう」などお礼の言葉を頂きました。私は研究のため6年間、米国で暮らしていましたが、

こんな温かい言葉を言ってくれるのは、日本人だけです。震災前からずっと私は「子どもを守る」ということを続けているだけですが、それが曲がりなりにもできているのは市民の方々のおかげで、本当に感謝しています。

日曜日には通常100人程度診療していますが、本震翌日は12人の患者さんが来られました。泥だらけになりながら来てもらったスタッフにも感謝しています。畢竟開けて良かったと思っています。

# 一筆



小児科医

駒木 智

2017.4.13